



滋賀県企業庁脱炭素ロードマップの 策定方針について



しがCO₂ネットゼロ
ムーブメント

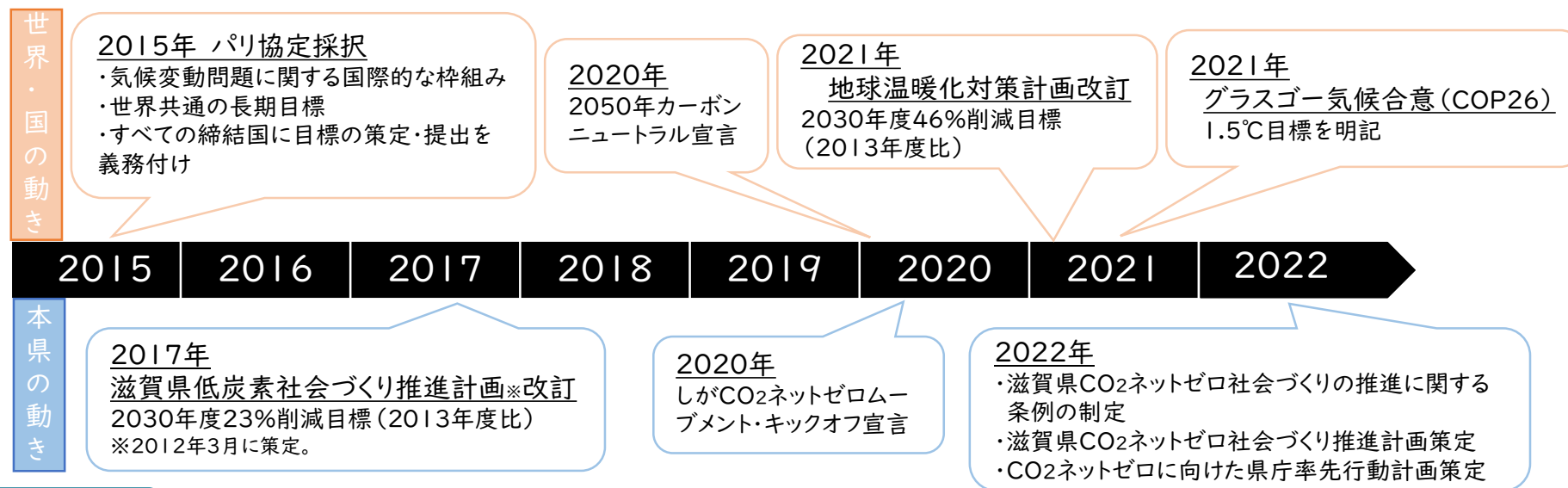
1.背景・趣旨

(1)背景

地球温暖化の進展により、近年、地球規模での自然への影響が表れており、2015年「パリ協定」採択など、世界的に温室効果ガス削減の動きが広がっています。

日本国内においても、猛暑や豪雨、大雪など、地球温暖化の影響と考えられる現象が起きており、国では、2020年、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指すことを宣言しました。

本県においては、2022年に「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」を制定するなど、取組を強化を図っており、「CO₂ネットゼロ」の実現に向けた動きが加速化しています。



(2)趣旨

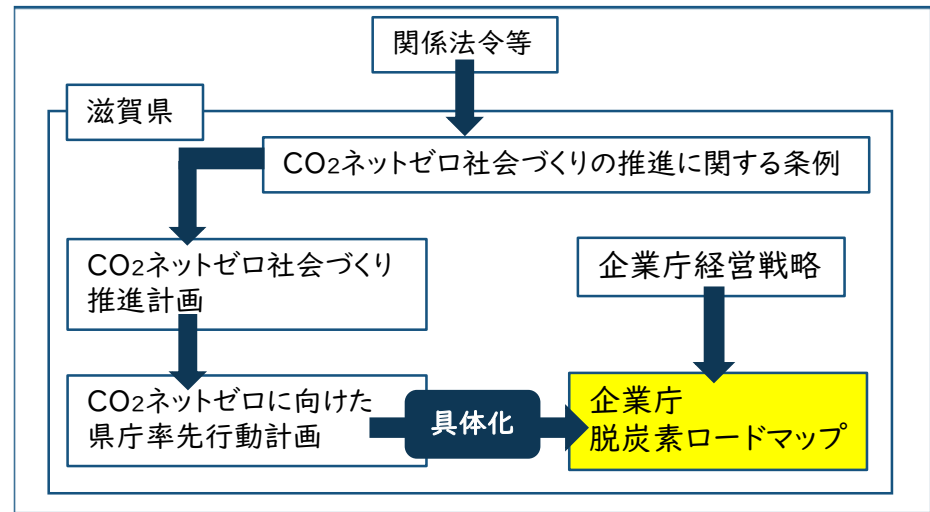
地球温暖化をはじめとする気候変動への対応は喫緊な課題であり、一人ひとりが取り組む必要があります。

特に企業庁は水道事業において、ポンプ等による水移送のため多くの電力を消費しており、県の取組推進のため率先した行動が求められることから着実に取組を進めるため、本ロードマップを策定することとします。

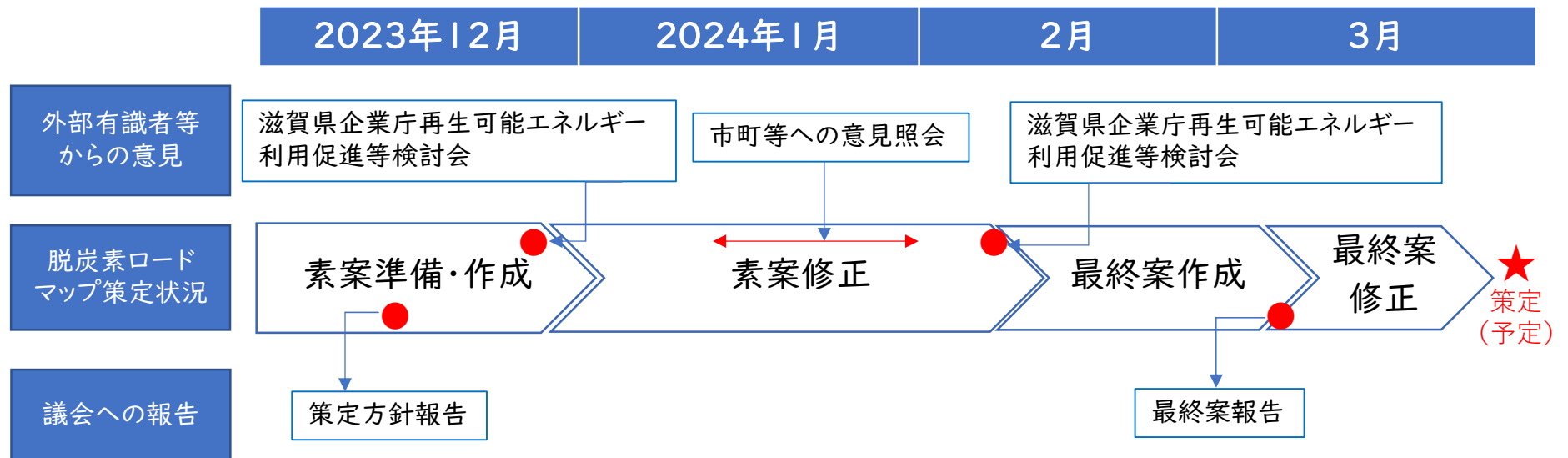
2.位置づけ

本ロードマップは滋賀県企業庁経営戦略（計画期間2021年度～2030年度）の基本目標の一つである「社会の変化に対応した持続可能な経営」を推進するため、当庁における脱炭素の取組を定めるものと位置づけます。

また、CO2ネットゼロに向けた県庁率先行動計画の方向性に沿って企業庁における脱炭素の取組を推進することとします。



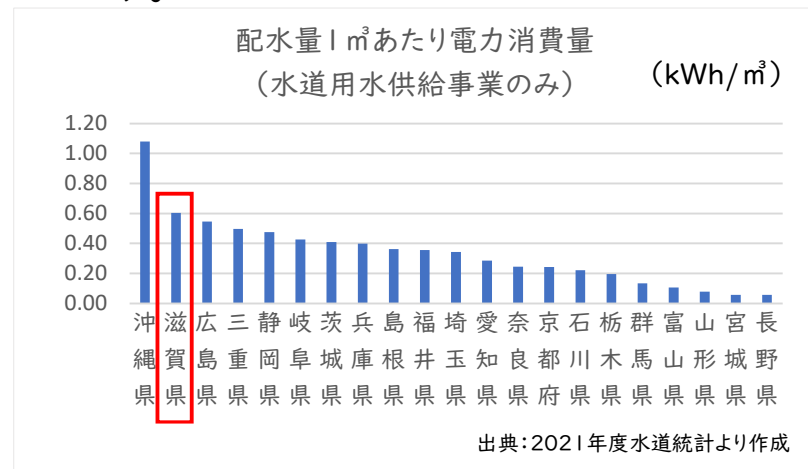
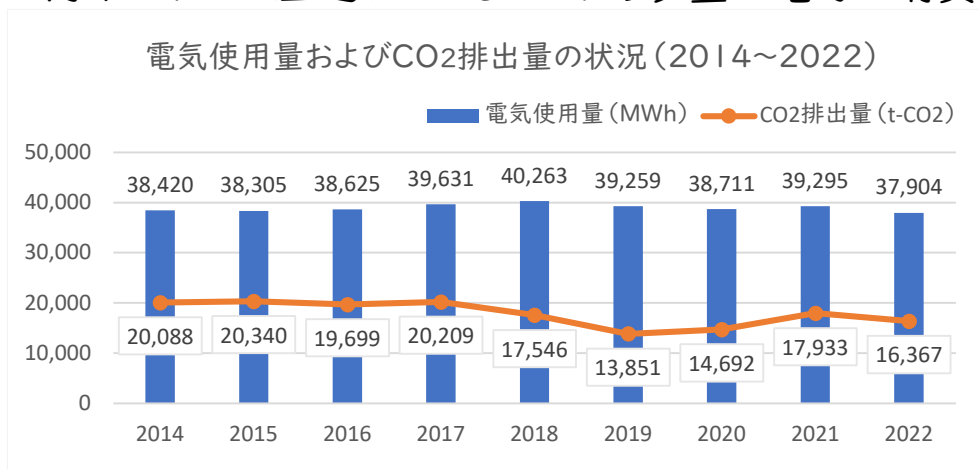
3.策定に向けたスケジュール(予定)



4.CO2排出の現状

企業庁では、8市2町を対象とした水道用水供給事業と、58事業所へ供給している工業用水道事業を運営しています。

多くの水道事業では、ダムや川の上流部を水源とし、水源から自然流下で各家庭や企業に配水していますが、当庁の場合は、琵琶湖からポンプで水を汲み上げて、標高の高い受水市町や受水企業に向けてポンプ圧送していることから多量の電力を消費しています。



5. 取組目標と取組項目(案)

CO2排出削減目標

「滋賀県CO2ネットゼロ社会づくり推進計画」と同じく、CO2排出量削減目標の達成と企業庁独自の取組目標として下記のとおり目標を設定します。

2030年の削減目標 (中間目標)	2050年の削減目標 (長期目標)	企業庁の取組目標 (中間目標)
2014年度対比 50%削減	カーボンニュートラル	PPA※1太陽光モデル 3浄水場での導入

取組項目(案)

「カーボンニュートラル」の達成に向けて、着実に推進するため、2050年への取組の方向性を示すとともに、2030年までの具体的な取組項目を設定します。

方針Ⅰ 創る	方針Ⅱ 減らす	方針Ⅲ 守る・伸ばす
<ul style="list-style-type: none"> ■再生可能エネルギーの利用促進 ・太陽光発電設備の増設 ・小水力発電設備の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ■省エネルギー化の推進 ・高効率機器への更新 ・庁舎照明のLED化 ・EV※5車の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ■環境を意識した事業運営 ・VPP※6事業への参画 ・水源林の保全活動 ・企業や大学等と連携した調査、研究

6. 取組項目(例)

3方針		7分類	19項目
創る	再生可能エネルギーの利用促進	1.再生可能エネルギーの導入・活用	①太陽光発電設備の増設(PPA ^{※1} 含む) ②小水力発電設備の導入 ③自然エネルギーの活用調査・研究
		2.環境に配慮した電気の活用	①低炭素電力の調達 ②蓄電池の導入・活用
減らす	省エネルギー化の推進	1.省エネルギー機器の導入	①高効率機器への更新 ②ポンプのインペラカット ^{※2} ③インラインポンプ ^{※3} 方式の採用
		2.水・施設の効率的な運用	①水運用の更なる効率化 ②計画的な管路の更新 ③排水処理工程の低炭素化
		3.日常業務における取組	①ZEB ^{※4} 等の導入 ②庁舎照明のLED化 ③EV ^{※5} 車の導入
守る 伸ばす	環境を意識した事業運営	1.社会全体の脱炭素化の促進	①VPP ^{※6} 事業への参画 ②スコープ3の検討・導入
		2.多様な主体との連携・協働	①水源林の保全活動 ②環境学習への支援等 ③企業や大学等と連携した調査・研究

(用語説明)

※1 PPA(Power Purchase Agreement)：電力販売契約。太陽光発電設備の所有、管理を行う事業者が必要家の敷地に太陽光発電設備等を無償で設置し、発電した電力を需要家が購入する仕組み。

※2 インペラカット：ポンプの羽根車を加工、揚程を減らすことで効率的に運用すること。

※3 インラインポンプ：大気開放による送水エネルギーの圧力損失をなくし、残圧を有効利用すること。

※4 ZEB(Net Zero Energy Building)：建物で必要なエネルギーを省エネで減らし、創エネでつくることで、全体の消費量をゼロにする仕組み。

※5 EV(Electric Vehicle)：電気自動車。

※6 VPP(Virtual Power Plant)：仮想発電所。地域に散らばるエネルギー資源をIoT技術で管理・制御する新しい需給調整の仕組み。